

特定非営利活動法人 あおもりみなとクラブ

地元高校生と商店街による博学連携活動「クリエイトまち塾」の展開

実施期間：2024年6月22日（土）～2025年3月16日（日）



【事業の内容・目的】

- 博学連携活動の更なる活発化と博学連携による地域の将来を担う若い世代の人材育成を主目的に、地元高校生を対象に、「みなとまち・青森の未来」をテーマに社会教育（博学連携）プログラム（クリエイトまち塾）を開講した。
- 参加した高校生は、青森のまちづくりのルーツである「みなとまち」の切り口から、みなとまちの未来を考え、年度末にアクションプラン（企画提案）の発表を行った。
- 地域人材の育成に取り組むNPO法人「あおもり若者プロジェクト クリエイト」と連携し、キャリア教育や地域連携を織り交ぜた体系的に「海を学ぶ」スキーム・プログラムづくりと、先駆的な事業としてのモデルケース化に取り組んだ。

活動の様子

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2024年6月22日（土）9：00 ～ 17：00

【開催場所】ねぶたの家 ワラッセ 交流学習室（2）

【参加者数】24 人

【活動内容・目的】

- クリエイトまち塾やみなとまち青森の全体像を把握し、活動を学ぶ意義を明らかにした。
- 商店街やみなとまちとしての青森の成り立ち・変遷を理解した上で、今年度の活動テーマである「みなとまち・青森の未来」の企画提案に向けたオリエンテーションを行なった。



最初に参加者同士・参加者対スタッフでアイスブレイクを行なって交流を図った。

その後、「青森市中心市街地のまちづくり活動を学ぼう」と題してあおもり若者プロジェクトクリエイトの久保田圭祐理事長より講義が行われた。青森市のまちづくりの歴史や特徴などを解説し、なぜ、みなとまち青森について学ぶのかの意義を見出した。講義の中で久保田理事長は「まちづくりの醍醐味は、誰もがプレイヤーになれることである」と解説した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



今回の講義とホームルーム活動を振り返ることを目的にワークショップが行われた。各グループに分かれて今年度の活動における目標設定をし、年間を通じたモチベーションの形成に努めた。参加者からは、「海を活用したまちづくりは斬新で面白そう。これからクラスの仲間と企画を考えていくのが非常に楽しみ。」との感想があった。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- これからみなとまちについてもっと知っていこうと思った。
- 青森の商店街と海は密接な関係であることを初めて知り驚いた。
- 初めてみなとまちについて知ることが出来て楽しかった。

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2024年7月15日（月）10:40～17:30

【開催場所】ねぶたの家 ワラッセ 交流学習室（2）

【参加者数】22人

【活動内容・目的】

- 青森市が官民一体となり3ヶ年で取り組む「みなとまち・青森誕生400年」の概要を学ぶとともに、まちづくりの主体者としての意識を涵養した。
- ウォーターフロントエリアの資源について、青森港開港400周年に向けた取り組みを学んだ。



講義では、「みなとまち・あおもり誕生400年実行委員会」の細川秀邦運営委員長を招いて行われた。青森港開港400周年に向けた取り組みや方向性、ウォーターフロントエリアの資源について学び、「みなとまち青森の未来」の企画立案に関する材料を収集した。講義の中で「まちと港が近いことが青森市のウォーターフロントエリアの最大の魅力であり、特に駅の目の前がビーチであることが全国的にとっても珍しい」との示唆があった。



ワークショップでは、講義やアクティビティ活動を通じて感じたウォーターフロントエリアや「みなとまち青森」の資源について整理した。青森にある観光資源や効果的な発信方法などについて自分の意見を発表し、青森を盛り上げていくにはどうすれば良いかを議論し合った。議論した意見の中から、「ウォーターフロントエリアの知られていない魅力を発掘して観光客にアピールしたい」と意気込んでいた。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 青森だけでなく他の県での港関係のイベントを紹介しつつ、そこでのメリット・デメリットなどを知ることができた。
- きれいな海だからこそアクティビティができると感じた。
- 青森市の発展には常に港が関わっているのだと知った。

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2024年8月25日（日）11:00～16:45

【開催場所】ねぶたの家 ワラッセ 交流学習室（2）

【参加者数】20人

【活動内容・目的】

- 地域ブランディングや広告コミュニケーションの先進事例に触れることで、ブランディング・コミュニケーション・マーケティングの観点から青森のまちづくりに関わりたくなる意欲を涵養した。
- 商店街のキャッチコピーを考える実践体験に取り組んだ。



講義では「伝えるコツを学ぼう」をテーマに株式会社東北博報堂の種市良嗣執行役員とコピーライター／アートディレクターの北山大将さんを迎えて、広告コミュニケーションや地域ブランディングの事例を学びながら、まちづくりや地域活性化に関する情報発信のスキルを学んだ。一例として、青森県の大規模観光キャンペーンに関わるプロモーションや「食」をテーマとしたツアーイベントの全体プロデュースを行い地域活性化に一役を買った事例について紹介があった。



ワークショップでは、「青森の商店街のキャッチコピーを考えよう！」と題して、ポストイットに商店街のイメージや青森の魅力などを書き出した。そこから、講師のアドバイスを踏まえて表現方法などのコツも提示していただいて、参加者は悩みに悩みながらもキャッチフレーズを考えることが出来た。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- みなとまち青森の魅力を他者に伝えることができた。
- みなとまちをイメージしながらキャッチコピーを作ることができた。
- みなとまち青森の未来についてのキャッチコピーを自分でも考えてみたい。

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2024年9月16日（月）10:30～17:40

【開催場所】リンクモア平安閣市民ホール 会議室（2）（3）

【参加者数】24人

【活動内容・目的】

- 「未来学視点での発想力と思考力」をテーマに講義を展開して未来の社会や技術の発展について理解を深めた。
- 未来の異なるシナリオを描き、そのシナリオに基づいて具体的な解決策やアイデアを提案することで、「みなとまち青森の未来」をより具体的に切り拓く力を養った。



講義では、「未来学視点での発想力と思考力」をテーマに、青森市しごと創造会議の山崎宇充座長を迎えて、未来の社会や技術の進展について理解を深めた。

山崎座長は「現代は、人工知能の発達や地球温暖化の進行で社会が目まぐるしく変化している」として、将来の社会や経済にどのような影響を考える「未来学」を学ぶことで、新しいアイデアや解決策を生み出す力が養えると話していた。



ワークショップでは、講義で学んだ「未来学」を実践する形で、未来の街づくりの仮説を各グループに分かれて検討した。未来の異なるシナリオを描き、それに基づいて具体的な解決策やアイデアを提案した。その他、現在のトレンドや技術革新を調査して、それが未来にどう影響するかを考えた。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 海の未来を想像し、理想像を膨らませることが出来た。
- 海とIoT をどう結びつければ良いか考えた。
- 青森市の将来の海について考えさせられた。

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2024年11月9日（土）13:00～17:50

【開催場所】青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 大ホール

【参加者数】17人

【活動内容・目的】

- まちづくり（地域づくり）の現場の第一線で活躍している実践者からの講義などを通じて、まちづくり（地域づくり）を実践することの楽しさ・奥義への理解を深め、実戦への意欲に昇華させた。
- まちづくり（地域づくり）の現場の第一線で活躍している実践者から、活動におけるリアルな話を聞いた。



地元若手農家・社会人として運営している産直市「あおもりマルシェ」を主催している「あおもりマルシェ実行委員会」の副代表の堺 麗未さんより講義をして頂いた。最初は数十人の来場しか無かった小さなイベントであったが、現在は数千人規模の来場を誇る老若男女に愛されるイベントと成長した。「あおもりマルシェ」が誕生して今日に至るまでの12年間で様々な苦労や挫折を経験された。



ワークショップは、整備新幹線を主な研究対象としている青森大学社会学部教授の櫛引 素夫さんをファシリテーターに迎えて行われた。整備新幹線の開業を契機として生まれた人と人のつながりを土台とした「新幹線効果」による地域づくりの様々な事例を挙げた。前半の講義内容にも触れて、参加者自身の経験や知識・思考をリンクさせることで、今後のみなとまち・青森の未来を考える効果的な活動となった。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 青森駅前ビーチでもマルシェを開催すれば面白そう。
- 農産物だけでなく海産物を売りにすればいいと思った。
- 新鮮な魚などがあおもりマルシェで販売できると青森らしさをもっと感じられると思う。

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2024年12月21日（土）13:00～18:00

【開催場所】ねぶたの家 ワラッセ 交流学習室（1）

【参加者数】23人

【活動内容・目的】

- プレゼンテーションの基礎や応用的なプレゼンテーション技法について、講師から学び、参加者の発信力・コミュニケーション能力の向上を図った。



「プレゼンテーションのスキルを学ぼう」をテーマに株式会社 DRAGON AGENCY 青森市社長の山口 章さんを講師に迎えて、講義が展開された。プレゼンテーションをする意義やどうしたら相手に納得・共感してもらえるプレゼンテーションになれるかのコツを教えて頂いた。企画提案の発表や日常生活はもとより、「みなとまち・青森の未来」を考える際に、自らの企画・アイデアについて共感を得られるような態度・スキルを身につけた。

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2025年1月12日（日）13:30～18:00

【開催場所】リンクモア平安閣市民ホール 会議室（1）

【参加者数】17人

【活動内容・目的】

- 「みなとまち青森」400周年を記念する企画の提案にあたり、400年の歴史を学び、企画提案内容に反映させることで提案に重厚感を持たせるとともに、参加者に青森の歴史や価値を考えるきっかけとした。
- 青森の歴史を市井の人々の生活に着目したり、現代の地図と古地図を比較してより深く学んだ。



講義では、「青森港とともに歩んだ人たち」をテーマに青森県庁交通・地域社会部地域生活文化課の県史担当総括主幹である中園 裕さんに講演して頂いた。かつての青森港は砂浜が広がるだけで、現在のように防波堤や棧橋はなかった。当時の青森市民が20～30年かけて設置した。新たな埠頭や漁港の建設、連絡船の廃止など時代と共に変化している。今の青森港は、先人たちの努力があってこそ存在するものである。



ワークショップでは、「クリエイトに入る前と後で変化したこと・成長したこと」をテーマにワールドカフェが行われた。クラス関係無く自由に対話する形となり、終始活発な意見が交わされた。参加者からは、「クリエイトまち塾に参加しなければ、商店街や海の活動に関心を持つことは無かった。来年度も継続したい。」と前向きな感想があった。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- もっと青森の海の歴史について学びたい。
- 八甲田丸についてもっと詳しく調べてみようと思った。
- これからも海とまちの未来がもっと良くなるといいなと思った。

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2025年2月24日（月）13:15～18:00

【開催場所】青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 大ホール

【参加者数】24人

【活動内容・目的】

- 青森市における地域資源を見だし、分析を行い、それをもとにブランディングを行う体験を通じて、地域資源の活用方法やマーケティング方法について触れた。
- 青森のまちの地域資源について、ワークショップも交えながら考え、青森のまちのデザインを考えた。



講義では、「まちをデザインしよう」をテーマに宮城大学事業構想学類地域創生学類 学類長の佐々木 秀之さんに講演して頂いた。間もなく、青森市が開港 400 周年を迎えるのを機に改めて地域の歴史や特性を見つめ直した。佐々木さんは地域資源を活用したまちづくりを専門に行っている。それは地域の活性化や持続可能な発展につながる。まちづくりは地域の課題を解決するだけでなく、今ある良いものをさらに伸ばすことが大事である。



ワークショップは、「青森の地域資源をどう活用するか」をテーマに行われた。青森には海という無形資源を最大に活用出来る。他にも自然が豊かだから、様々な無形資源を掛け合わせて新しいアイデアをたくさん生み出せる。参加者はアイデアをより具体化するために、文字だけでなく、イラストを用いて課題について検討した。地域資源を活用することで、地域の魅力を高めて持続可能な発展に繋がられる。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 海というかけがえのない資源を最大限に活かしたい。
- まだ知られていない海の資源を組み合わせることで新しいことが生まれると思った。
- 青森の海について研究するのも面白いと思う。

①「みなとまち・青森の未来」に関連する勉強会の開催

【開催日時】2025年3月16日（日）9：30～ 11：30

【開催場所】青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 大ホール

【参加者数】46人

【活動内容・目的】

- 1年間における活動の取りまとめとして、これまでのクリエイトまち塾の活動を通して何が得られるかを考える。
- 「みなとまち・青森の未来」をテーマにしたこれまでの活動を振り返っただけでなく、これからの時代がどうなるのか、これからの社会で求められる要素とは何なのかを考え、クリエイトまち塾での学びをどう活かすかを探った。



講義では、NPO 法人あおもり若者プロジェクト クリエイトの久保田圭祐理事長より、「クリエイトまち塾で何を学んだのか ～これからの時代をどう学び、どう生きる?～」と題して最終講義があった「現代は生成 AI が著しく発達している。生成 AI は非常に便利であるが研究することは出来ない。そのみならず、自分の頭で考えることが大切である。VUCA（将来の予測が困難な状態）の時代だからこそ、過去を知ることが大切で未来を考えるヒントになる」と話していた。



ワークショップは、副担任が企画から運営まで行った。来年度からのなりたい自分に対する目標や1年間の活動を参加者同士で振り返った。参加者からは、「諦めずに食らいつく力が身についた。来年度はクラスの垣根を超えて、たくさんの人と学び合いたい。」といった感想が寄せられた。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 1年間の活動を通してクリエイトまち塾に入る前と比べて色んな意味で成長した。
- 生成AIは便利であるけど、自力で物事を考えることも大切だ。
- 来年度は、今年以上に積極的に活動に携わりたい。

②「先進地域へのフィールドトリップ（１回）」

【開催日時】２０２４年１０月１４日（月）１０：３０～１７：００

【開催場所】八戸市水産科学館マリエント および 八戸ポータブルミュージアムはっち、八戸市中心市街地

【参加者数】２９人

【活動内容・目的】

- 全国有数の水産都市である八戸市について理解を深めることで、交通拠点・商業拠点として発達した青森市、水産都市として発達した八戸市という、異なる背景で発展した２つのみなとまちについて比較検討の糸口とした。



【施設見学】八戸市水産科学館マリエント
全国屈指の水産都市である八戸市において、水産をテーマに八戸の漁業、近海生物の生態、海洋研究などを紹介している。参加者はそこで、八戸市の水産都市としての歴史を学んだり、魚を実際に触れて楽しみながら海の生態系や環境について学びを深めた。



講義では、八戸市のまちづくり政策について学んだ。

株式会社まちづくり八戸の柳沢 拓哉さんとまちぐみ組長の山本 耕一郎さんを講師として迎えた。八戸市は、目的が無くても人が集まるまちを目指したまちづくりをコンセプトに掲げている。お店・伝統工芸・文化の継承・歩く通り全てをおもしろく、「なんか楽しそう」を創り出す活動を日々行なっている。

柳沢氏は「中心街の役割は商業だけでなく、人が集まることで何かが生まれる場所である」と話していた。



フィールドワークでは、八戸市の街並みを実際に歩いて市独自の取り組みや街の雰囲気是直接確かめた。その中でも八戸ブックセンターは八戸市が運営している全国的にも珍しい書店であり、ブックカバーの展示会や著書のトークショーなどのイベントを定期的で開催している。こうすることで、「本のまち八戸」の魅力向上を図っている。今回見学した八戸市のまちづくりの特徴や優れた点は、年度末に行ったみなとまち青森の未来を考える企画提案にも応用された。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 海の生態系や環境をもっと守りたいと思った。
- 人との交流が海を守っていくことに繋がると思った。
- 商店街と海のつながりを感じた。

③「みなとまち・青森」を実感する体験活動の実施

【開催日時】カヤック体験

2024年7月15日（月）13:00～14:15

縄文クッキング

2025年3月 2日（日）10:00～13:00

【開催場所】あおもり駅前ビーチ、縄文の学び舎・小牧野館

【参加者数】47人

【活動内容・目的】

- アクティビティ活動の一環として、実際にカヤック体験をすることでウォーターフロントエリアの資源について体現を通じて学ぶ。
- 縄文時代のことを学ぶ講座のほか、土器を使った藻塩づくりや石器を使った調理などの体験。



アクティビティ活動では、カヤック体験を通じて、ウォーターフロントエリアの資源について学んだ。実際に参加者2人1組となってカヤック船艇を体験した。初めて体験する参加者が大半であったため、最初は思うように操縦出来なかったが、徐々にコツを掴んで上達したように見受けられた。官民が一体となってウォーターフロントエリアを盛り上げている様子を目の当たりにして参加者一同、刺激を受けた。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- 青森駅前こんな楽しい体験が出来るなんて素晴らしいことだ。
- きれいな海だからこそアクティビティができると感じた。
- 初めての体験で操縦が思うようにいかなくて大変だったが、来年もまたやりたい。

④「商店主を巻き込んだ「みなとまち・青森の未来」をテーマとした政策立案

【開催日時】 2024年6月22日（土）～2025年3月15日（土）

【開催場所】 青森市中心商店街および青森港

【参加者数】 217人

【活動内容・目的】

- 高校生が1年間にわたって「みなとまち青森の未来」をテーマとした地域課題の解決策を検討する。



ホームルーム活動では、各クラス顔合わせを行なった。その後、クラス毎に分かれてまちの面白さ、まちづくりのワクワク感を体感してもらうことを目的に商店街のまち歩きを実施した。「近年、青森港にクルーズ船が寄港する頻度が高い。そのお陰でクルーズ船に乗船して来た外国人観光客が商店街に直行して、商店主と交流する機会が増加した。それに比例して、商店街で買い物をし、お金を落としていくようになって経済効果が波及している」と担任を担う商店主は高校生に話していた。【実施日：2024年6月22日（土）】



ホームルーム活動では、講義やワークショップで学んだ地域ブランディングやキャッチコピーの作成について各クラス振り返りを行なった。活動内容をインプットだけで終わるのではなく、他者に伝えることでアウトプット力をつけた。また、クラスによってはフィールドワークも実施して、みなとまち青森の魅力を探った。高校生は「今日の講義やワークショップで学んだことを活かして地域ブランディングやマーケティングをもっと学びたい」と話していた。【実施日：2024年8月25日（日）】



ホームルーム活動の一環で青森港に赴いてクルーズ船のお出迎え・お見送り活動を行った。近年、大型クルーズ船の来航頻度が多くなった。そのため、商店街や青森駅周辺ベイエリアに多くのインバウンド客が訪れるようになり賑わいが加速化している。かつての青函連絡船が運航していた時代を彷彿させている。【実施日：2024年9月8日（日）】



ホームルーム活動は、企画提案を見据えた実践に向けてどのクラスも本腰を入れて活動に取り組んでいる。今日の講義で学んだ「未来学」をもとに、10年後、20年後のみなとまちがどういう姿であって欲しいか、どう進化するかなどをクラスの担任や副担任を交えて参加者同士議論し合った。【実施日：2024年9月16日（月）】



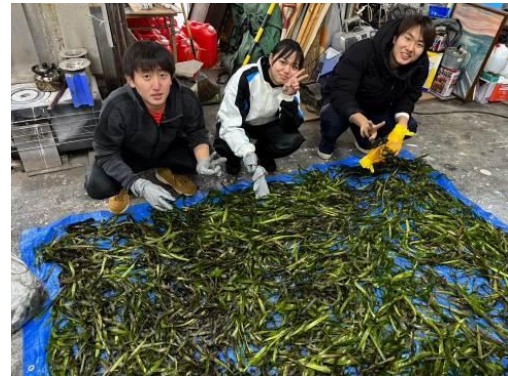
ホームルーム活動では、来月に控える中間発表会に向けて各クラスともに本格的な実践に踏み込んでいる。今日の講義やワークショップでまちづくりの現場のリアリティある話を聞くことが出来たので、参加者自身モチベーションが高まった。自らが企画して青森港開港400周年に向けたイベントを実施させたいという高い意欲を持った参加者もいた。

【実施日：2024年11月9日（土）】



中間発表会では、今年度のテーマである「みなとまち・青森の未来」をテーマとした企画立案を実施した。

半年間のコアプログラムで知り得た海の学びを参加者、スタッフ全員に共有した。各クラスともにフィードバックを受けて、3月の成果発表会本番に向けてより具体的な提案になるよう、アドバイスを受けていた。【実施日：2024年12月21日（土）】



このクラスでは海の資源を利用して石鰯作りを行った。実際に海に行きアマモを採取する過程から始まり、海の生態系も学んだ。アマモは環境に良く生物多様性も守られていて、環境保全の役割を果たせる。当該クラスは、アマモ石鰯製作を通して、アマモやむつ湾、青森港を知ってもらうきっかけ作り、地域特産品の魅力や使い道の多様さを知らせるメリットがあると考えており、企画提案に反映させたいと話していた。【実施日：2025年1月7日（火）】



みなとまち青森の歴史を踏まえて昔と今のまちの在り方を振り返った。商店街には昔の名残が残っている箇所もあり、今も重要な役割を果たしていると担任から説明があった。このクラスでは本格的な実践として、青森港に生息するアマモを利活用して石鯰作りを行っていた。【実施日：2025年1月12日（日）】



成果発表会に向けて各クラス追い込みとして、地域資源の活用方法について、より深みのあるアイデアや議論を交わしていた。成果発表会まで残り1ヶ月を切ったこともあり、各クラスとも、熱い議論が交わされていた。【実施日：2025年2月24日（月）】

【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- ホームルームの仲間全員で協力して、満足のいく企画を作りあげることが出来た。
- フィールドワークしていく上で、もっと青森のことについて知りたくなった。
- 青森の課題やそれに対する解決策を話し合っていて考えていく力が身についた。

⑤みなとまち・青森の未来を考えるシンポジウム（成果発表会）の開催

【開催日時】2025年3月16日（日）

【開催場所】ねぶたの家 ワ・ラッセ イベントホールおよび交流学習室（1）

【参加者数】100名

【活動内容・目的】

- 今年の青森港開港400周年を見据えて、高校生が1年間にわたり検討を重ねてきた「みなとまち青森の未来」をテーマにした企画提案を実施した。



今年度は、4つのクラスからの企画提案発表が行われた。参加高校生は、フィールドワークや地元商店主の助言を受けながら、1年間にわたって検討を重ねてきた。「フォトスポット」「石けん」「キャラクター」「デジタルマップ」と、それぞれの切り口で、青森港開港400周年を見据えたまちづくりについて、高校生が主体となって企画を提案した。審査員から丁寧なフィードバックも頂戴して、榎引素夫さん（青森大学社会学部教授）からは、「長い時間にわたって企画提案を検討してきた参加者の努力に心から敬意を表する。」と労いの言葉を頂いた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



【参加者の声】 ※アンケート回答結果をもとに、簡潔に記入。

- クリエイイトは自分にとって大きな存在であり、自分の将来を変えてくれた。
- 活動を通して青森が前よりも好きになったし、盛り上げたいという気持ちが高まった。
- 青森の歴史や魅力、店主の地元に対する想いが伝わって、まちを活性化させたい気持ちが高まった。

【事業全体のまとめ】

青森港開港400周年の節目に1年間を通してまちづくり活動に携われたことは、参加者はもとより、店主や運営に携わっているスタッフにとっても大きな経験となった。参加者からは、「1年間で活動が終わらせるのは非常に勿体無い。来年度も継続して海について学びたい。」「青森港開港400周年を誇りに思っていて、それを周りの子達に教えて、みんなでみなとまち・青森の未来を考えていきたい。」と前向きな感想があった。今後もクリエイトまち塾の関係者一同でみなとまちの発展に貢献する所存である。博学連携においては一般的に学校教育機関側の理解や柔軟な対応がなければ、充実したものになり得ないが、教員多忙化も相まって、なかなか理解や柔軟な対応に至っていない事例も多いと思料する。この分野に知見や理解も深く、もともと地域人材の育成に取り組むNPO法人連携して博学連携事業を行ったことで、キャリア教育や地域連携を織り交ぜた体系的な「海を学ぶ」スキームを構築できた。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 特定非営利活動法人 あおもり若者プロジェクトクリエイト	共催・コーディネート・立案支援
2. 青森市内に所在する青森県立高校	参加者公募の協力
3. 八戸市水産科学館	フィールドトリップ運営の協力
4. 株式会社まちづくり八戸	フィールドトリップ運営の協力
5. 青森市中心市街地活性化協議会	高校生の企画提案検討における協力
6. 青森市新町商店街進行組合	高校生の企画提案検討における協力
7. 青森市昭和通り振興会	高校生の企画提案検討における協力

※主に教育機関や地域団体、他館などを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 読売新聞 青森版	「港町」青森 高校生がPR (2025年3月29日 26面)
2. 青森ケーブルテレビ	クリエイトまち塾2024 成果発表会 特別番組 (2025年4月3日)

※TV・新聞・雑誌等、主なものを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。